

～東日本大震災から12年～

東日本大震災は、2011年3月11日14時46分頃に発生しました。マグニチュード(M)は9.0。これは、日本国内観測史上最大規模、アメリカ地質調査所(USGS)の情報によれば1900年以降、世界でも4番目の規模の地震でした。また、東日本大震災は、津波による災害・原子力発電所による災害が発生したことも熊本地震にはなかった特徴の一つです。今回の防災だよりは「津波」がテーマです。過去に発生した熊本の津波について知り、今後の対策について考えるきっかけにしてください。

東日本大震災の概要

発生日時	2011年3月11日 14時46分頃
震源	三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近) 深さ約24km
震度	震度7 宮城県北部 震度6強 宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部 震度6弱 岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県西北部
死者	15,467名
行方不明者	7,482名
負傷者	5,388名
避難者数	124,594名
建物倒壊	全壊103,981戸、半壊96,621戸、一部損壊371,258戸
被災者の救助活動状況	救出等総数26,707名
部隊派遣等の状況 (これまでに派遣された人員、対応勢力総数)	警察庁 広域緊急援助隊等 約51,600名 消防庁 緊急消防援助隊 約28,620名 海上保安庁 特殊救難隊等1,792名、巡視船艇等5,284隻、航空機1,869機 防衛省 自衛隊等の最大派遣規模 約107,000名 厚生労働省 6月20日現在の活動チーム数:医師等の派遣38チーム、保健師派遣101チーム

(出典 2011年6月20日17:00現在 首相官邸 緊急災害対策本部発表)

熊本でも過去に津波が発生しています！！

【熊本県の主な津波災害】

①744年(天平16年)6月6日

津波の原因:沿岸での近地地震による津波

波高 :不明

被害 :人1520余、田290余、民家470余

主な地域 :天草、芦北、八代

②1792年(寛政4年)5月21日 (島原大変、肥後迷惑と呼ばれています。)

津波の原因:眉山(雲仙)の山体崩壊による津波

波高 :10m~20m程度

被害 :死者約5100人

主な地域 :玉名、熊本、宇土、天草

熊本県作成防災ハンドブック2020より引用



津波は地震以外にも発生します。

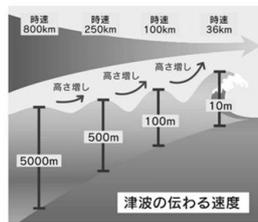
～津波に備えてできること～

日頃の備え

備えることで危険は減らせます

津波の特性を知る

- 津波の速さは海が深いほど速く、深海ではジェット機並みの速さです。
- 津波の高さは海岸や海底の地形などに影響され、想像以上の高さになることもあります。
- 津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。また、第1波が必ずしも最大であるとは限りません。
- 地震の揺れが小さくても津波が来る場合もあります。



避難の準備

- 避難場所や高台の位置、避難経路を確認しておきましょう。
- 避難時にすぐ持ち出せるように、非常持出品を準備しておきましょう。



津波が発生しそうなときは

避難のポイント

- 地震の揺れがおさまったら、すぐ高台や津波避難場所へ避難しましょう。
- 海岸から、「より速く」ではなく「より高い」場所へ避難しましょう。
- 渋滞中に津波に巻き込まれるおそれがあるので、原則として車は使わず、徒歩で避難しましょう。
- 津波は繰り返し襲ってくるので、避難しても気を緩めず、第2波、第3波に注意しましょう。
- テレビ、ラジオ、防災行政無線などから正しい情報を入手しましょう。



津波の速さは陸上で約時速40kmです。オリンピック選手でも走って逃げるのができない速さです。だからといって、車での避難は危険！（東日本大震災では、渋滞が発生）どこに、どうやって避難すべきか、事前に考えることが大切です。

熊本県作成防災ハンドブック2020より引用